

## 静止気象衛星写真で見る 7 月 31 日の天気

大 越 治

日食情報 1980 年 4 で、日本を中心とした皆既日食帯付近の衛星写真を紹介したが、その際に中心とした北太平洋は、観測計画が中止となってしまう、結局はシベリアでのみ日食観測が行われた。

静止気象衛星 GMS (ひまわり) は、東経 140 度上にあるため、シベリア付近は画面の端にあり、きわめて見にくい位置にある。多くの日本人が観測をしたブラーク郊外のタルマは北緯 55 度 58 分 56 秒、東経 101 度 24 分 48 秒とのことなので、かろうじて画面でわかる位置である。ここでの皆既は世界時の 3 時頃起こる。ちょうど 3 時は、GMS が写真撮影をする時刻なので、月の影が写るのではないかと考えられていた。

写真 1 は 3 時に撮影された可視光による写真である。地球の中心を通るまっすぐの線が東経 140 度の線だ。画面左上の薄黒くなっている所が月の影にあたる。比較のため、昨年同日同時刻のものを写真 2 として掲げる。明るさのちがいがはっきりするだろう。

写真 3 は同時に撮影された赤外画像である。これを見ると、タルマ上空には中層から上層にかけての雲が広がっていることがわかる。これは現地でも撮影されたコロナの写真や全天写真からもよくわかる。

また、日本付近を見ると、西日本と北海道の北部が雲におおわれ、関東から東北、北海道の中部までがよく晴れている様子が見える。九州付近には台風 10 号が見える。

GMS1 IR 0232 81 JUL 31 03Z HOURLY OBS



写真 3 1981 年 7 月 31 日 赤外画像 - 10 -

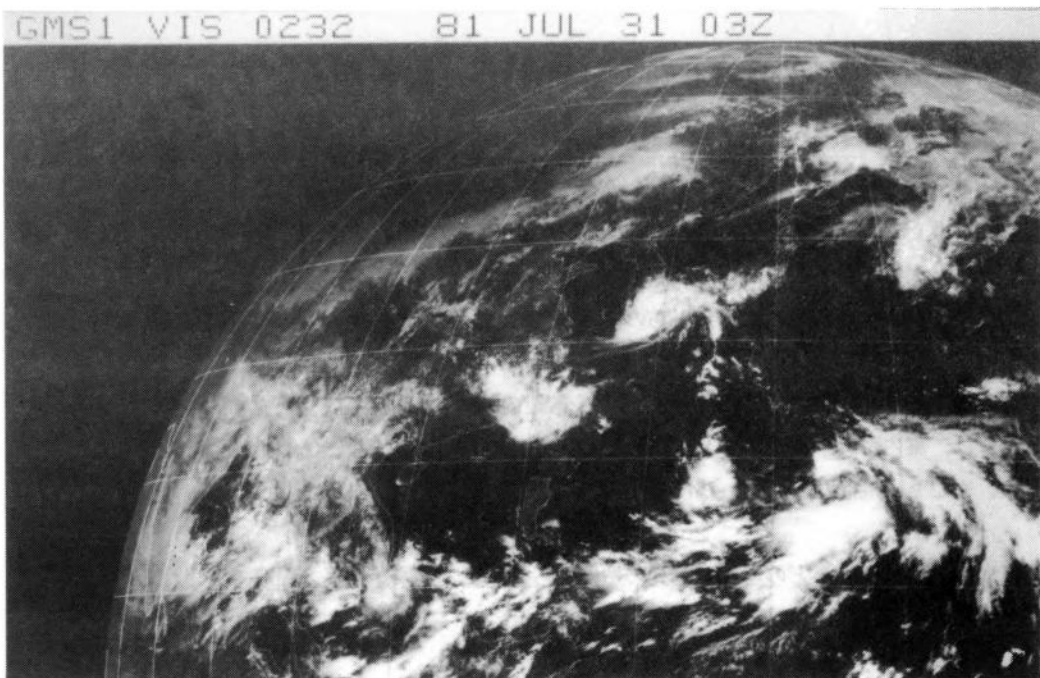


写真1 1981年7月31日 可視画像



写真2 1980年7月31日 可視画像